経営のマテリアリティ

マテリアリティ

三社電機グループは、経営理念の一つに「社会に価値ある製品を」を掲げ、持続可能な社会の実現に向けて事業を通じて積極的な貢献を行ってきました。SDGs（持続可能な開発目標）が採択される以前から、当社グループは社会課題解決に取り組み、環境への配慮や社会的な影響に対する責任を重視してきました。

中期経営計画「CG23」の策定に際して、当社グループは社会的な課題を注視し、ステークホルダーの関心や影響度とともに、当社グループの事業に直接関連する重要な要素を評価しました。この評価を通じて、当社グループが優先的に取り組むべき6つのマテリアリティが特定されました。

これらのマテリアリティは、中期経営計画において事業戦略と統合され、具体的な施策を策定し、実行に移すことで、当社グループは課題解決に取り組みます。また、これらの施策は単に当社グループの成長や利益追求にとどまらず、SDGsの達成にも積極的に貢献するものとなります。当社グループは、当社グループが持つ技術やイノベーションを活かし、社会的な課題に取り組むことで持続可能な社会の実現に向け、貢献していきます。

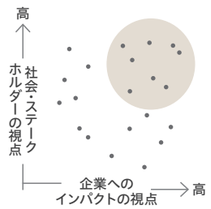
特定プロセス

社会的な課題の抽出 → **抽出した課題の分析** → **マテリアリティの特定と見直し**

SDGsに代表される国際規範や当社グループに関連する業界の行動規範（RBA行動規範※）、主要なガイドライン（GRI、ISO26000）、メガトレンドなどを参考に、当社グループが注視する社会的課題を抽出しました。

※ RBA行動規範とは、エレクトロニクス産業、電子機器関連産業のサプライチェーンのための規範を定めたものです。

抽出した社会的課題の中から、ステークホルダーの関心と影響度、当社グループにとっての重要度を分析および評価し、マテリアリティ案の作成を行いました。



作成されたマテリアリティ案の経営層による妥当性評価を経て、優先的に取り組むべきマテリアリティを特定し、中期経営計画とともに取締役会で決議しました。
今後は、中期経営計画の策定ごとに経営環境や社会の変化を考慮して見直しを行っていきます。

社会的な課題の抽出　リスクと機会の分析

当社が注視する社会的な課題	リスク	対応・機会
気候変動	• 自然災害による事業活動の中断 • 電力の需給逼迫（ひっぱく）	• 電力を安定供給する技術・製品開発 • 環境対応製品開発 • 老朽化設備への投資
再生エネルギー・新エネルギーの普及促進	• 電力供給が不安定 • 発電コスト高	• 事業機会の増加 • 再エネ・新エネ対応の技術・製品開発
先進国から新興国へ世界経済力のシフト	• 市場拡大による競争激化 • 地球環境問題への影響	• エリア展開 • 都市化に伴うインフラ整備に対応
テクノロジーの進歩/イノベーション	• デジタル活用の遅れ • 技術革新による新たな競争相手の出現	• IoTを活用した技術開発、サービスの展開
国内人口の減少	• 労働力不足による国際競争力の低下 • 人材獲得難による技術力低下	• 多様な人材活用によるイノベーションの創出 • 業務の効率化による生産性向上 • 技術人材の育成

特定したマテリアリティと主な取り組み

マテリアリティ	主な取り組み	関連するSDGs
1 脱炭素社会、環境保全への貢献	• 高効率製品の開発 • 新エネ・再エネ関連製品の開発	7 13 14
2 強靭なインフラ整備と産業発展に貢献	• 無停電電源装置（UPS）の開発 • 表面処理用電源の安定供給	9 11 13
3 安心・安全の提供と新たな価値提供によるサービス向上	• 製品単体販売だけでなく、システムでの提案 • 遠隔保守体制の強化	12
4 モノづくりの強化	• 知財戦略の推進 • 合理化、自動化投資 • 設計の標準化	12
5 生産活動における環境負荷の軽減	• CO_2排出量削減に向けてプロジェクト設置 • 老朽設備更新の検討 • 再エネ電力の調達	7 12 13 14
6 ダイバーシティの推進と人材の活躍	• 人材育成体系を見直し、教育研修を増加 • ダイバーシティの推進 • 労働環境の整備	5 8